

自己評価票

- 自己評価は全部で101項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	23
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	8
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	101

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 敬寿
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	新潟県 上越市
記入者名 (管理者)	五十嵐 育子
記入日	平成20年 3月 / 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	出来ている	<input type="radio"/> 地域住民の方々との交流会を持ち利用者を理解して頂安心して暮らしていけるサービスを提供して行く
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をスタッフルームに貼り出し日々、職員に意識づけを行っていない、共有はされているがなかなか実践に向けての取り組みまでは至っていない	<input type="radio"/> 理念の再度の確認と実践が行われているかの定期的な話し合い
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族には年度初めに説明はしたが地域の方々には話してはいない(配布したパンフレットの中に織り込んである)	<input type="radio"/> 今年度も新たなパンフレットを作成しグループホームを理解して頂く
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	畑仕事をしている祭、隣近所の方々より色々アドバイスを頂いている立ち寄って頂くよう声掛け行方もなかなか来て頂けない	<input type="radio"/> 散歩や買い物等で顔見知りになった方には事業所の様子を気軽に見に来て下さるよう声掛けを続けて行く
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行事については連絡を頂くと可能なかぎり参加しているが地元の方々との交流までには至らない	<input type="radio"/> 事業所側でも来て頂けるような物を考えて行く

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	パンフレット配布する祭認知症ケアで困っている事があれば相談に来てほしい事を話す。8月よりDS事業を行う事を伝え気軽に利用をして頂くよう話す。包括センターと共済で転倒予防教室開催	○	地域に向けた勉強会を開催して行く
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	実施する意義の理解は全員が把握しているかどうか分からないが個々に点検し話し合いサービスの質の向上に努めている	○	評価を受けた後の話し合いを設け改善点の検討を行う
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り上げられた検討事項に、問題事項については報告し貴重な意見を頂いている	○	意見等は積極的に取り入れ可能な限り活かしていく
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携はほとんどなされていない	○	地域包括支援センターと連携を取り行政への関わりを持って行きたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はほとんどない。現在は必要な方はおられない	○	機会があれば学びたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体変化を見逃さないように注意はしている。知らず知らずに言葉による虐待はあるかも知れない	○	どのような物が虐待に当たるか勉強会を実施して行く

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をする際十分に説明は行っている。分からない事、納得しない事はいつでも聞いて下さるよう話している	現状維持
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に機会は設けていないが日々の中で尋ねる等し、全職員と話し合いサービスに反映している	○ 定期的に意見を聴く会議を開催し利用者が色々の意見を出しやすいように工夫して行く
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	定期的には報告はしていないが行事の案内、来所時には個々に合わせた報告をしている	○ 定期的に担当サイドから報告をするようにして行く
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に機会は設けていないが面会時等で訴えられた場合は全職員と話し合いサービスに反映している	○ 家族が何でも言えるような雰囲気を作るように努める
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に機会を作っている。日々の中で意見、提案を言いやすい雰囲気を作り反映させている	現状維持
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	急病時の受診の際、対応出来るよう勤務調整をし柔軟に対応している	現状維持
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	せっかく馴染みの関係が出来た所で母体での絡み異動が多い。職員の入れ替え時はきちんと説明している。利用者より新しい職員に対して色々教えてくれる	○ 異動時、退職時にはきちんとした引継ぎ体制を行っていく
18-2	○マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	各種マニュアルは整備されているが職員に周知されているかどうかはわからない	○ 適宜見直しを行っていく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各種研修が行われているが勤務時間等の関係で参加されない事がある</p>	○	なるべく多く職員が参加できるように配慮する。参加できない人の為に報告会を行って行く
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同じ法人内のGHとの交流する機会を持ち意見交換の場を設けているが参加者が少ない</p>	○	法人外のなるべく多くGHとの交流を行い色々な情報を得てサービスの質の向上に取り組んで行く
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>相談、意見交換等の言いやすい雰囲気作りは行っているがストレスの軽減になっているかはわからない</p>	○	時間外でじっくりと話を聴く時間を設けるようにして行く
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員個々のケアのあり方にバラつきがある</p>	○	職員全員が向上心を持ってやりがいがある職場にして行く
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所時に本人よりじっくりと聴いている。困った事が生じた場合等は職員同志で話し合い家族にも協力して頂いているがなかなかうまくいかない</p>	○	家族に協力して頂くよう再三話かけて行く
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族より困っている事などの相談を受けた場合はじっくり時間をかけて聴くようにしている</p>		現状維持

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービ ス利用も含めた対応に努めている	何が必要かを見極め事業所としてできる限りの対応をしてい る。出来ることは速やかに実行している		現状維持
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工 夫している	入所時は家族が事前に施設内の見学、サービス内容の説明を聞きに来られる。又、通所利用時は、ケアマネが、家族、利用者と共に見学に来られ納得してご利用される		現状維持
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共に し、本人から学んだり、支えあう関係を築いて いる	入所者に頼る場面もあり良好な関係を築いている。アドバイ スを受けながらコミュニケーションを図っている	○	職員全員が良好な関係を築いているとはいえないので全 員が出来るようにして行く
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支え ていく関係を築いている	家族により差がある。協力的な家族は迷った時や出来ない 時など相談すると支援してくれる	○	協力をあまり得ない家族への働きかけを行っていく
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援し ている	支援するように努めているがお互い歩みよろうとされずなか なか面会にも来られず	○	時間のある限り面会にきて頂く様声掛けを行って行く
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている	馴染みの床屋や美容院の出張をして頂いたり、又、デイケア に友人が訓練に来られている方の所へ面会に行く等支援し ている		現状維持
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合え るように努めている	女性利用者同志は互いに助け合っている姿は見られるが男 性利用者は孤立しがちで、職員との交流に限られている	○	男性利用者も孤立しないよう行動に目配りし配慮して行く

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設に移った方とは継続的な関係をしている	○	面会等に行き継続的な関係を続けて行く
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人は帰りたいとの希望があるも家族は受け入れを拒否されている	○	検討して本人の意向に沿うようにして行く
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	最初のアセスメント表や初期の聞き取りで把握しているのみ	○	場所等に配慮しながらこれまでの暮らし等を聞いて行く
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	把握し職員間で検討している	○	職員間の情報交換の徹底
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は作成されているが維持されていない	○	アセスメント、モニタリング、カンファレンスをきちんと期間毎に行って行く
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ほとんど見直しは行っていない	○	職員とケアマネージャとが一緒になり介護計画をきちんと行って行く

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かい記録を残し情報を共有し実践に取り組んでいるが介護計画の見直しはされていない	○ 記録を基に介護計画の見直し、評価を徹底的に行っていく
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ディサービスご利用のご家族への要望は可能な限り柔軟に支援している	○ 要望があれば応えて行きたい
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行っていない	○ 安心して暮らせるように意見交換の出きるような機会を作っていく
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	行っていない	○ 事業所以外のサービスが受けられるよう外部のケアマネジャーと連携を持って行きたい
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加されているが協働しているとはいえない	○ 包括支援センターと協力し本人本位の支援を行っていく
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望されているかかりつけ医師との関係を築いている方もいる。又、具合の悪い時などかかりつけはないが状況に応じ適切な医療を受けられる	○ かかりつけの医師のいない方はきちんと医療機関に受診できるよう支援していく。内科、精神科と分けて受診していくように支援していく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>関係は築かれているが職員が相談するまで身近な関係にはなっていない</p>	<p>○</p> <p>主治医が専門医の為もっと気軽に指示や助言を受けて行きたい</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>緊急時や困った時等母体の看護職員に連絡し指示を仰ぐが日常的な交流はない</p>	<p>○</p> <p>母体との協力支援についての取り決めをきちんと行う</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>ここ2～3年入院された方がおられない</p>	<p>○</p> <p>今後に備えて考えて行く</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>職員間では話し合いはされているが本人、家族、医院との話し合いはなされていない。重度かになった場合は特養への入所を家族に進めている</p>	<p>○</p> <p>事業所としての対応について本人、家族、かかりつけ医院等話し合っていく。ターミナルケアの研修の実施</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>行っていない</p>	<p>○</p> <p>今後事業者として重度かや終末に向けた検討をして行く</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>他の施設に移られる際は、アセスメント、ケアプラン、支援状況等を事前に手渡し情報交換を行って移って頂いている</p>	<p>現状維持</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉掛けや対応に留意はしているが、一部の職員の言葉遣いに配慮が欠けた部分がある。個人情報の取り扱いには注意を払われている	○ 職員間での話し合いを設け意識を高めて行く
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々の色々な場面で職員は心掛けているが一部では押し付ける声掛けを行っている為利用者で納得されていない方もいる	○ 利用者の希望をもう少し取り入れ納得しながら暮らして頂けるよう心掛ける
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課があり職員の決めた事に合わせて頂きながらその都度本人の意思を尊重するように配慮し希望に添って過ごして頂いている	○ 本人の意志尊重しながら支援を続けて行く
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝、本人が決めて着替えをしている。職員は必要時支援をしている。理容、美容は本人の望む店に行っている。又出張して来て頂いている	○ 外出時には化粧等して頂くようにして行く
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行われているが全員の好みも反映されているとはいえない。食事作りや後片付けなどはほぼ毎日関わっている	○ 利用者の力量に応じた役割をなるべくして頂く
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物やおやつに関しては、好みを伺って出せる範囲で楽しんで頂いている	○ 言える方の好みも優先されている部分があり、遠慮されている方の嗜好の支援もきちんと行って行く

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	オムツ使用者は今の所おらず紙パンツ使用2名のみ。ほぼ全員の方は自分の力で排泄をされている		現状維持
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴を行っていたがDS事業を行ってからはゆっくり入って頂けなくなった。その為1日おきにしてゆっくりと自分のペースで入って頂いている。又、身体的な面で毎日入浴の方もおられる		現状維持
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の希望や体調の変化等を見ながら休息を促している		現状維持
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意な事、好きな事の把握に努め日々の中で行えるよう支援している。後片付け等は当番制で行っている	○	無気力、認知症の進んでいる方への役割、楽しみを見つける
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には預かり金は禁止になっているが力量に合わせて所持されていて、買い物時自ら支払いしている	○	買い物時支払うよう話すも拒否が多いのでなるべく支払いをまかせるように持っていく
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々の希望に添っての外出は職員の手厚い時には即対応しているが手薄時は対応は難しい	○	なるべく外に出る機会を増やして行く。又、外で行う行事等も検討して行く
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望する利用者には対応している	○	はっきり言える方ばかりのみ対応しているが、自ら訴えの無い方には職員からの声掛けで実現するよう働きかけて行く

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、電話の対応をしているが遠慮されている部分もあり。又、手紙を頂いた方には返事を出すよう支援している	○	希望時での速やかな対応に心掛けていく
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問される方にはいつでも気軽に入って頂き、居室又はリビングで一緒に過ごして頂いている		現状維持
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修資料の完備等、職員の理解に努めているが全員が正しく理解できているかはわからない	○	身体拘束についての研修を受ける機会を設ける
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間のみ施錠として対応しているが各居室においては、外より施錠し出れないようになっている	○	危険性のない利用者の居室については施錠をはずし様子を見て行く
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在や様子は常に把握している。無断外出されようとする姿が見えた時は後からついて行く等し安全に配慮している		現状維持
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	針箱等は各人の力量に応じ使用して頂き、必要な方には見守りをして使用して頂いている		現状維持
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各人の状態に合わせ事故の危険を回避するよう気づきの話し合いを持ち工夫している	○	まだまだ知識不足が見られるので未然に防ぐ為の工夫が必要

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	フォーマットは作成されているが訓練等は行なっておらず実際の対応については出来るかどうか分からない	○	応急手当や蘇生法の研修は年1度行っているが実際の対応に生かせるようシュミレーション等を行って見る
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に訓練を行なっている。地域の運営推進委員の方には協力して頂くよう話はしてある	○	地域の方との関係を深める交流会を図る
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	無断外出した時等、家族に具体的に説明し施錠をしない事を話納得して頂く	○	職員同志起こり得るリスクに関しての話し合いを常に行って行く
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックより情報交換が行われ早めの対応に努めている		現状維持
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員が全てを理解しているとは言えないが各担当はそれぞれ把握し投与時には確認をしながらきちんと本人に手渡し服用出来ている	○	薬が変わった時等、誤薬がある。もっと意識を持つようにして行く
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬になるべく頼らないように運動や飲食物で解消するように利用者に説明している	○	朝起き掛けにヨーグルトを飲用されている方には継続して行く。訴える方は水分不足があるので多めに水分を摂って頂く様な声掛けをして行く
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	行っているが拒否の強い方への対応が難しい	○	拒否の方への対応についての話し合いを行って行く

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援に努めているがまだまだ工夫の余地がある。水分量はなるべく多く摂るよう話すがなかなか摂らない方は決まっている	○	水分嫌いの方への対応の仕方についての工夫に努める
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルがあり取り決めもあり実行させているが日々の意識が希薄になりがち	○	必要に応じた時の対応を完全に行えるような研修を行って行く
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日の調理用具等の消毒は行えている。食材は毎日買出しに行き、生ものなどは必ず火を通し使用するようになっている		現状維持
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	立地的に奥まっっており看板も無く、安心して出入りが出来るような玄関、建物ではない	○	現在看板を作成中。早期に立て分かりやすくする。又、花等置き玄関らしく工夫して行く
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保つように努めており、手作りカレンダー等で季節感を出すよう工夫している。又、台所からは、食事作りの音や、匂い等があり生活感が出ている	○	常に共用空間は清潔に保つよう整理整頓に気を配って行く
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは広く個々に思い思いの場所で過ごしている。テレビ前のソファ、ベンチ、円形窓の所には畳が敷かれ、それぞれ自由に過ごされている		現状維持

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の使い慣れた物を活かし使用されている方もいるがそうで無い方もいる。家族とのコミュニケーションが難しい方もあり本人の好みの物を活かさきれていない方もいる	○	家族に相談し、協力を得て在宅時に使用していた馴染みの物を持って来て頂く様話して行く
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のとどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	決められた時間に換気を行い室内の温度調節にも気を配っている		現状維持
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	狭い所を通りやすい利用者には危険性のないよう環境整備を行う。調理台の低さを訴える方には、台を置く等して使い易い高さに調節している	○	誰もが使いやすいような工夫をして行く
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者が混乱しないように声掛けや見守りを行っている		現状維持
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	居室からの出入りはできないが一部分が常に開放してあるのでそこより自由に外に出て、散策や日光浴等季節により楽しんでいる		現状維持

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input checked="" type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input checked="" type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input checked="" type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

体力、筋力の低下予防の為、毎日の日課としてラジオ体操オ1、オ2と歩行訓練を実施している。
自身と誇りを持って生活できるように活動場面や機会を作り提供している。